

エアロスペース科(3年次)教育課程(履修規程第2条別表)

区分	科目	単位数	授業時数	通年科目	半期科目		集中講義科目	定期試験の受験資格		必要修得時数
					前期	後期		講義科目	実験又は実習科目	
一般科目	人間学Ⅲ	1	20	○				○		授業を履修し、試験に合格した科目(修得科目)の授業時数の合計が800時数であること
	体育Ⅱ	1	60	○					○	
	英語AⅢ-1	2	30		○			○		
	英語AⅢ-2	2	30			○		○		
	英語BⅢ-1	2	30		○			○		
	英語BⅢ-2	2	30			○		○		
	航空英語-1	2	30		○			○		
航空英語-2	2	30			○		○			
専門科目	構造設計特論Ⅰ	2	60	○				○		
	構造設計特論Ⅱ	2	60	○				○		
	航空工学Ⅱ-1	2	30		○			○		
	航空工学Ⅱ-2	2	30			○		○		
	航空工学特論Ⅰ	2	30		○			○		
	航空工学特論Ⅱ	2	30			○		○		
	宇宙工学特論	2	30			○		○		
	生産システム	2	30			○		○		
	基本実習Ⅱ-1	1	60		○				○	
	基本実習Ⅱ-2	1	60			○			○	
	検査工学Ⅱ(浸透探傷検査)	1	60		○				○	
	選択A	機械加工Ⅱ(CAM応用)	3	120	○					○
航空機組立実習										
CAD実習Ⅲ										
選択B	検査工学Ⅱ(放射線透過検査)	2	90	○					○	
	検査工学Ⅱ(超音波探傷検査)									
計		38	950							800

2025 シラバス(科目概要・授業計画)

科目区分 一般科目

学科・コース名	エアロスペース科			開講時期	3年次	通年
授業科目名	人間学 III		担当教員名	担任 (1~8,10回)		学生支援課 (9回)
授業形態	講義	授業時数	20	単位数	1	選択必修区分 必修
授業概要 (目的・テーマ等) (150文字程度)	社会人として必要な基礎知識、ルール、マナーおよび求められる基礎力について、講義、講演会、奉仕活動などを通して学ぶ。					
到達目標 (150文字程度)	社会人として必要な基礎知識、ルール、マナーを身につける。 「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の必要性を理解し、普段から心掛け実行する。					
評価方法	定期試験			その他の評価方法		
	筆記試験	レポート	課題レポート	取り組み姿勢		
			80%	20%		
教員実務経験	—					
学生へのメッセージ (150文字程度)	立派な社会人として活躍できるように、学んだことを普段から実践し身に付けてください。 また、自分の夢を実現させ幸せになるための具体的な行動を考え、実行する習慣が身に付いたかを振り返り、実社会においても成長し続けてください。					
教科書	書名	人間学(プリントまたはデータ)		書名		
	書名			書名		
参考書	書名			書名		
	書名			書名		

授業計画 (各回ごとの項目と内容について)		
回=90分	項目	内容
1	新社会人講座	(1)良い人間関係を作るには(2)会社の仕組みと組織(3)社会人としてのマナー
2		
3		
4	社会人基礎力	(1)前に踏み出す力 (2)考え抜く力 (3)チームで働く力
5		
6		
7	講演会など	外部講師等による講演または学科教員による講義
8		
9	コンプライアンス	コンプライアンスについて
10	奉仕活動	清掃活動など

2025 シラバス(科目概要・授業計画)

科目区分		一般科目			開講時期	3年次	通年
学科・コース名	エアロスペース科						
授業科目名	体育Ⅱ		担当教員名	蓑島昌尚			
授業形態	実習	授業時数	60	単位数	1	選択必修区分	必修
授業概要 (目的・テーマ等) (150文字程度)	社会で生きて働く健康に関する知識と体力の保持増進を図り、仲間と一緒に運動する喜びを味わわせ、将来にわたり進んでスポーツや運動に親しめる態度を養う。						
到達目標 (150文字程度)	将来にわたり、進んで運動を続けられる知識と態度を身に着ける。						
評価方法	定期試験			その他の評価方法			
	筆記試験	レポート	取り組み姿勢	課題評価	授業への取り組みと課題追及への態度 課題の内容と課題達成度(発表内容)		
			50%	50%			
教員実務経験							
学生へのメッセージ (150文字程度)	社会の一員として、責任が果たせる体力を身に着け、健康で楽しく生きていける術を身に付けよう。						
教科書	書名		書名				
	書名		書名				
参考書	書名		書名				
	書名		書名				

授業計画 (各回ごとの項目と内容について)		
回=90分	項目	内容
1	オリエンテーション	授業の年間計画を理解し、自己の目標づくりを行う。
2	体力診断Ⅰ	体力診断テストから年度末の目標値を設定する。 基礎トレーニング
3	運動と健康1	免疫と運動 スローストレッチ
4	運動と健康2	軽スポーツを知る① オリジナルルールの作成
5	軽スポーツ体験1	ラケットベースボール体験①
6	軽スポーツ体験1	ラケットベースボール体験②
7	運動と健康3	ストレスと運動 筋力アップトレーニング
8	運動と健康4	嗜好品とガン 筋力アップトレーニング
9	運動と健康5	軽スポーツを知る② オリジナルルールの作成
10	軽スポーツ体験2	グラウンド ゴルフ体験①
11	軽スポーツ体験2	グラウンド ゴルフ体験②
12	運動と健康6	CPR(救命救急処置)の実践 筋力アップトレーニング
13	運動と健康7	熱中症とその予防 筋力アップトレーニング
14	軽スポーツ体験3	キックベースボール体験①
15	軽スポーツ体験3	キックベースボール体験②
16	運動と健康8	適応能力 筋力アップトレーニング
17	運動と健康9	血液の役割 筋力アップトレーニング
18	運動と健康10	環境と体力 モルックの楽しみ方 筋力アップトレーニング
19	軽スポーツ体験4	モルック体験①
20	軽スポーツ体験4	モルック体験②
21	運動と健康11	疲れと運動 筋力アップトレーニング
22	課題追究1	グループダンス作成と個人研究① 筋力アップトレーニング
23	課題追究2	グループダンス作成と個人研究② 筋力アップトレーニング
24	課題追究3	グループダンス作成と個人研究③ 筋力アップトレーニング
25	課題追究4	グループダンス作成と個人研究④ 筋力アップトレーニング
26	課題追究5	グループダンス作成と個人研究⑤ 筋力アップトレーニング
27	個人課題発表	個人研究発表 スローストレッチ
28	個人課題発表	個人研究発表 スローストレッチ
29	ダンス発表会	グループダンス発表 評価 スローストレッチ
30	体力診断Ⅱ	1年間の自己の体力の成果を確かめる 筋力アップトレーニング

2025 シラバス(科目概要・授業計画)

科目区分 一般科目

学科・コース名	エアロスペース科			開講時期	3年次	前期
授業科目名	英語A III-1		担当教員名	浅井 尚美		
授業形態	講義	授業時数	30	単位数	2	選択必修区分 必修
授業概要 (目的・テーマ等) (150文字程度)	実践的な英会話力を身に付けられるようにする。英語を通し異文化を知り、さらにグローバルな英語を学ぶ。同時に1、2年次に引き続き、英検取得のための学習をする。					
到達目標 (150文字程度)	社会に出て役立つ英会話力を出来るだけ身に付ける。英検準2級、2級取得を目指す。					
評価方法	定期試験		その他の評価方法			
	筆記試験	レポート				
	100%					
教員実務経験	企業における海外勤務者への英語指導、通訳などの実務経験					
学生へのメッセージ (150文字程度)	就職活動、就職先で活かせる英語力を身に付けるよう、授業に取り組んでください。					
教科書	書名	On the Go		書名		
	書名			書名		
参考書	書名	英検過去問集		書名		
	書名			書名		

授業計画 (各回ごとの項目と内容について)		
回=90分	項目	内容
1	On the Go	Unit9
2	On the Go	Unit9 リスニング
3	On the Go	Unit9 Travel Guide
4	On the Go	Unit10
5	On the Go	Unit10 リスニング
6	On the Go	Unit10 Travel Guide
7	On the Go	Unit 11
8	On the Go	Unit11リスニング
9	On the Go	Unit 11 Travel Guide
10	On the Go	Unit 12
11	On the Go	Unit12 リスニング
12	On the Go	Unit 12 Travel Guide
13	On the Go	Unit 9~12 Review 英検対策など
14	On th Go	試験対策用プリント
15	On the Go	試験対策用プリント

2025 シラバス(科目概要・授業計画)

科目区分 一般科目

学科・コース名	エアロスペース科			開講時期	3年次	後期
授業科目名	英語A III-2		担当教員名	浅井 尚美		
授業形態	講義	授業時数	30	単位数	2	選択必修区分 必修
授業概要 (目的・テーマ等) (150文字程度)	実践的な英会話力を身に付けられるようにする。英語を通し異文化を知り、さらにグローバルな英語を学ぶ。同時に1、2年次に引き続き、英検取得のための学習をする。					
到達目標 (150文字程度)	社会に出て役立つ英会話力を出来るだけ身に付ける。英検準2級、2級取得を目指す。					
評価方法	定期試験		その他の評価方法			
	筆記試験	レポート				
	100%					
教員実務経験	企業における海外勤務者への英語指導、通訳などの実務経験					
学生へのメッセージ (150文字程度)	就職活動、就職先で活かせる英語力を身に付けるよう、授業に取り組んでください。					
教科書	書名	On the Go		書名		
	書名			書名		
参考書	書名	英検過去問集		書名		
	書名			書名		

授業計画 (各回ごとの項目と内容について)		
回=90分	項目	内容
1	On the Go	Unit 13
2	On the Go	Unit 13 リスニング
3	On the Go	Unit 13 Travel Guide
4	On the Go	Unit 14
5	On the Go	Unit 14 リスニング
6	On the Go	Unit 14 Travel Guide
7	On the Go	Unit 15
8	On the Go	Unit 15 リスニング
9	On the Go	Unit 15 Travel Guide
10	On the Go	Unit 16
11	On the Go	Unit 16 リスニング
12	On the Go	Unit 16 Travel Guide
13	On the Go	Unit 13~16 Review 英検対策など
14	On the Go	試験対策用プリント
15	On the Go	試験対策用プリント

2025 シラバス(科目概要・授業計画)

科目区分 一般科目

学科・コース名	エアロスペース科				開講時期	3年次	前期
授業科目名	英語BIII-1		担当教員名	野田 あゆみ			
授業形態	講義	授業時数	30	単位数	2	選択必修区分	必修
授業概要 (目的・テーマ等) (150文字程度)	2年次に習得した基礎文法力の強化に加え、ビジネスシーンでよく使われる語彙も強化する。効果的なTOEICの解き方を習得し、該当問題を解く。音読、会話練習、問題解説時にはアクティブラーニングを取り入れ、学生主体の授業を展開し、リスニング力、リーディング力を総合的に上げていく。						
到達目標 (150文字程度)	3年次前期のメインターゲット：(3年次終了時の目標スコア：450点) ・ビジネス系の単語を覚える。 ・TOEICによく出る基礎文法(品詞、動詞の形、時制)を習得する。 ・練習問題を通して問題形式に慣れる。						
評価方法	定期試験		その他の評価方法				
	筆記試験	レポート					
	100%						
教員実務経験	企業で英語・スペイン語の指導、メキシコのカンクンにてホテル勤務経験						
学生へのメッセージ (150文字程度)	受身の授業ではなく、皆さんが積極的に参加できるように、楽しくかつ実践的な授業にしていきたいと思います。目標点数に少しでも近づくようにTOEICのパートごとの攻略法もお伝えしていきます。スコアアップにはまず単語を覚えることから始めましょう。質問があればなんでも聞いてください。						
教科書	書名	First Time Trainer for the TOEIC® TEST, Revised Edition			書名		
	書名				書名		
参考書	書名	随時プリント資料配布			書名		
	書名				書名		

授業計画 (各回ごとの項目と内容について)

回=90分	項目	内容
1	Unit 1 Shopping	買い物に関する語句・表現を覚える
2		動詞を学ぶ(主語・動詞の一致)
3	Unit 2 Daily Life	日常生活に関する語句・表現を覚える
4		名詞を学ぶ(加算・不可算名詞)
5	Unit 3 Transportation	交通に関する語句・表現を覚える
6		代名詞を学ぶ(主格・所有格・目的格)
7	Unit 4 Jobs	職業に関する語句・表現を覚える
8		形容詞・副詞を学ぶ(品詞の役割)
9	Unit 5 Meals	食事に関する語句・表現を覚える
10		動詞の時制を学ぶ(現在・過去・未来・現在完了形)
11	Unit 6 Communication	伝達に関する語句・表現を覚える
12		能動態・受動態を学ぶ
13	Pre-test	実践問題
14		実践問題
15	復習	前期の復習

2025 シラバス(科目概要・授業計画)

科目区分 一般科目

学科・コース名	エアロスペース科			開講時期	3年次	後期	
授業科目名	英語BIII-2		担当教員名	野田 あゆみ			
授業形態	講義	授業時数	30	単位数	2	選択必修区分	必修
授業概要 (目的・テーマ等) (150文字程度)	2年次に習得した基礎文法力の強化に加え、ビジネスシーンでよく使われる語彙も強化する。効果的なTOEICの解き方を習得し、該当問題を解く。音読、会話練習、問題解説時にはアクティブラーニングを取り入れ、学生主体の授業を展開し、リスニング力、リーディング力を総合的に上げていく。						
到達目標 (150文字程度)	3年次後期のメインターゲット: (3年次終了時の目標スコア: 450点) <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス系の単語をさらに強化する。 ・発音の仕組みを覚え、英文を音の塊で聞けるようになる。 ・時間内で素早く、正確に解けるようにタイムマネジメント能力を養う。 						
評価方法	定期試験			その他の評価方法			
	筆記試験	レポート					
	100%						
教員実務経験	企業で英語・スペイン語の指導、メキシコのカンクンにてホテル勤務経験						
学生へのメッセージ (150文字程度)	前期で学習したことを復習しつつ、さらに新しいことを学び、時間を気にしながら素早く問題を解けるように心がけてください。TOEICは勉強すれば必ずスコアアップができるので、継続的に自己学習をしましょう。						
教科書	書名	First Time Trainer for the TOEIC® TEST, Revised Edition		書名			
	書名			書名			
参考書	書名	随時プリント資料配布		書名			
	書名			書名			

授業計画 (各回ごとの項目と内容について)		
回=90分	項目	内容
1	Unit 7 Fun	娯楽に関する語句・表現を覚える
2		動名詞・不定詞を学ぶ
3	Unit 8 Office Work	オフィスに関する語句・表現を覚える
4		助動詞を学ぶ (can, may, might, must, should)
5	Unit 9 Meeting	会議に関する語句・表現を覚える
6		比較を学ぶ (原級・比較級・最上級)
7	Unit 10 Travel	旅行に関する語句・表現を覚える
8		前置詞(時間・場所・対象)を学ぶ
9	Unit 11 Finance	お金に関する語句・表現を覚える
10		接続詞(逆説・理由・原因)を学ぶ
11	Unit 12 Business	仕事に関する語句・表現を覚える
12		関係詞を学ぶ (主格・目的格・所有格)
13	Post-test	実践問題
14		実践問題
15	総復習	全unitまとめ 単語総復習、総合問題

2025 シラバス(科目概要・授業計画)

科目区分 一般科目

学科・コース名	エアロスペース科				開講時期	3年次	前期
授業科目名	航空英語-1		担当教員名	小杉健一			
授業形態	講義	授業時数	30	単位数	2	選択必修区分	必修
授業概要 (目的・テーマ等) (150文字程度)	航空機の機体や部位・部材の英語表現を解説し、航空機産業で使われる用語の理解を図る。トピックスとして、航空電子・宇宙機の英語表現や渡米時に見聞する事物を概説する。次に設計関係で必要になる英語表記を学習する。						
到達目標 (150文字程度)	航空機技術者として必要な専門知識の英語表現を習得し、英語で表記された製造図面や仕様書、マニュアルの基本的な読解力を身に付ける。関連するトピックスを通じて航空宇宙業界の動向に関心を持ち、英文で読んでみようという意欲を持つ。						
評価方法	定期試験			その他の評価方法			
	筆記試験	レポート	課題	取組み姿勢			
	80%		10%	10%			
教員実務経験	航空機製造企業において航空宇宙機の機体開発、Boeing監督員への説明・調整の実務経験						
学生へのメッセージ (150文字程度)	航空機産業・機械産業で働くと、様々なシーンで様々なレベルの英語に遭遇します。本講義では、必ずしも英語が得意とは言えない人を対象に、知らないと困る・知っていると役に立つ専門用語・略語を中心に解説します。英会話やTOEICとは一味違う、日本人航空技術者のための英語にチャレンジして下さい。						
教科書	書名	(配布プリント)		書名			
	書名			書名			
参考書	書名	飛行機の構造設計(日本航空技術協会)		書名	航空機生産工学(オフィスHANS)		
	書名			書名			

授業計画 (各回ごとの項目と内容について)			
回=90分	項目	内容	
1	序	設計・製造の言語	授業項目
2	機体	機種	民間機と関連組織 軍用機と関連組織
3		荷重・強度	荷重と強度の用語 疲労と損傷許容性
4		胴体	機体分割 胴体の部材 ドアと窓
5		主翼	主翼の用語 主翼の部材 高揚力装置
6		尾翼・操縦	尾翼の用語 舵面 操縦系統
7		E/G・脚	エンジン周りの用語 脚の用語
8		トピック	電気・電子
9	宇宙機		ロケット 人工衛星 再突入
10	渡米		空港とエアライン 出入国 地名と道路
11	設計	Engineering	技術部門の仕事 設計基準と試験 強度解析
12		図面	図面の構成 表題欄とPL
13			位置と方向 図示の用語 発行と改定
14		SPEC	社内SPEC 関係機関 公共規格、基準
15		材料	主な材料 購入品の区分 調達と資材管理

2025 シラバス(科目概要・授業計画)

科目区分 一般科目

学科・コース名	エアロスペース科			開講時期	3年次	後期
授業科目名	航空英語-2		担当教員名	小杉 健一		
授業形態	講義	授業時数	30	単位数	2	選択必修区分 必修
授業概要 (目的・テーマ等) (150文字程度)	航空機の製造・生産体制・運用で使われる英語表現や略語を解説し、航空機産業で使われる用語の理解を図る。また、生産活動の一般常識を題材に、和英対訳版のテキストを用いて 英文和訳・和文英訳の演習を行う。					
到達目標 (150文字程度)	航空機工業・機械工業に従事する者に必要な専門用語の英語表現を習得し、英語で表記された製造図面や仕様書、マニュアルの理解力を向上させる。生産活動についての和英対訳を通じて、仕事に役立つ英語力を向上させる。					
評価方法	定期試験		その他の評価方法			
	筆記試験	レポート	課題	取組み姿勢		
	80%		10%	10%		
教員実務経験	航空機製造企業において航空宇宙機の機体開発、Boeing監督員への説明・調整の実務経験					
学生へのメッセージ (150文字程度)	航空機産業・機械産業の様々なシーンで遭遇する英語・略語に対処できるよう、知らないと困る・知っているに役立つ専門用語・略語を中心に解説し、また 和英対訳の練習をします。英会話やTOEICとは一味違う、日本人航空技術者のための英語にチャレンジして下さい。					
教科書	書名	(配布プリント)		書名	生産活動の一般常識[日英2か国語版] (産業能率大学)	
	書名			書名		
参考書	書名	飛行機の構造設計(日本航空技術協会)		書名	航空機生産工学(オフィスHANS)	
	書名			書名		

授業計画 (各回ごとの項目と内容について)		
回=90分	項目	内容
1	部品加工	板金加工 板金加工設備、ツール、ケミルの英語表現
2		機械加工 機械加工、NCの英語表現
3		複合材 接着と複合材の英語表現
4		特殊加工 溶接、その他の加工
5	生産活動	和英対訳 英文和訳: Negative Thinking, General Knowledge of Production Activities
6		和英対訳の演習: 生産活動の一般常識
7	運用	整備・修理 整備と修理の英語表現
8		運行 航空機運行の英語
9	組立	締結 分数の英語表現 リベット結合の英語表現
10		組立 締結・工具に関連する英語表現
11	生産体制	プラン 工場内の役割分担、文書、日程の英語
12		製造計画 新製品の開発と量産の英語表現
13		治工具 治工具に関する英語とコード
14		品質保証 品質保証、検査・試験、不具合の英語表現
15		艤装 搭載品と艤装の英語表現

2025 シラバス(科目概要・授業計画)

科目区分		専門科目		開講時期		3年次		通年	
学科・コース名	エアロスペース科					開講時期	3年次	通年	
授業科目名	構造設計特論 I			担当教員名	森 繁				
授業形態	講義	授業時数	60	単位数	2	選択必修区分	必修		
授業概要 (目的・テーマ等) (150文字程度)	航空機図面には、JIS製図規定によらない航空機特有の規定や設計用語、図面作成上のルール等がある。これらの基本を学習することで設計・検査・製造に不可欠な読図法を習得する。また、航空機構造に作用する荷重を理解し、それらの設計・解析理論を学ぶことで図面化までに至る設計手法の基本を習得する。								
到達目標 (150文字程度)	航空機的设计・検査・製造に関わる航空機特有の製図規定や用語等の基礎知識、および構造解析理論の基礎知識を習得し、その結果を用いて単純な航空機構造の検討から図面化まで一連の作業を完遂できることを目標とする。								
評価方法	定期試験				その他の評価方法				
	筆記試験	レポート	課題提出	取り組み姿勢					
	80%	—	10%	10%					
教員実務経験	航空機製造関連企業において国際共同開発を含む航空機開発・維持(構造設計/解析/試験)の実務経験								
学生へのメッセージ (150文字程度)	航空機的设计・検査・製造に関わる重要で不可欠な専門知識となります。座学と並行して課題作成も行いますので、積極的に授業に参加し知識の習得に努めてください。								
教科書	書名	航空機生産工学			書名				
	書名	講義資料(プリント等)			書名				
参考書	書名				書名				
	書名				書名				

授業計画 (各回ごとの項目と内容について)		
回=90分	項目	内容
1	航空機設計作業の概要	航空機設計作業の位置付けと概要
2		航空機設計作業の特徴
3		設計作業の流れ、コンセプト・デザイン
4		技術作業概要(構造、材料、空力)
5		技術作業概要(電気・電子、装備)
6	航空機開発、維持作業の概要	航空機の開発設計と維持設計
7		設計に於ける汎用ツールと専用ツール、設計工数
8	航空機図面の概要	VIEWの取り方と基準座標系(STA・BL・WL他)
9		図面種類(DETAIL・ASSY・INSTR)
10		表題欄(図面番号、図面名称、一般公差)、図面変更と改定
11		設計に関わる品質保証
12	航空機図面の製図規定	図面の投影法、インチ系/ミリ系図面
13		寸法記入法(代表寸法、参考寸法、等分割寸法 他)
14		特殊な図面表記法、補助符号、投影符号、矢視符号
15		展開図、寸法非表示図(NDD)、前期授業総括
16		一次/二次構造の様式
17	航空機構造設計の基礎	構造設計留意点
18		軸力部材の荷重(引張/圧縮)、反力点、端処理
19		応力集中、オフセット荷重
20	航空機構造解析の基礎	構造解析用語と符号
21		軸力部材と荷重
22		荷重倍数、安全率
23	ファスナ配置設計	ファスナ/リベットの種類とその強度
24		ファスナ/リベット配置の基本(端縁距離、間隔他)、リベット数
25		リベット継手寸法、R部へのリベット配置
26	薄板継手の強度解析基礎	薄板材の引張/せん断/面圧強度
27		ファスナ/リベットの継手強度、安全率一覧表作成
28	設計演習(課題作成)	設計演習(軸力部材の設計)
29		設計演習(軸力部材の強度解析と図面化)
30		設計演習(最適設計解説と評価)、授業総括(まとめ)

2025 シラバス(科目概要・授業計画)

科目区分		専門科目					
学科・コース名	エアロスペース科					開講時期	3年次 通年
授業科目名	構造設計特論Ⅱ			担当教員名	森 繁		
授業形態	講義	授業時数	60	単位数	2	選択必修区分	必修
授業概要 (目的・テーマ等) (150文字程度)	航空機構造やそのシステム系を含め世の中に存在する各種機械は多くの様々な性質を持った部品から成り立っている。それらの部品は組立のために接合されたり、各々が回転や摺動したりして動きを伴ったりもする。これらの部品が故障することなく安全に機構するための基本的な設計法について学ぶ。						
到達目標 (150文字程度)	航空機構造や機械設計の基本として、構造設計手法の基礎、部品や構造物に作用する力や仕事、材料の強さを把握できること。また、ねじやボルト、軸受け等の機械要素全般について理解することを目標とする。						
評価方法	定期試験			その他の評価方法			
	筆記試験	レポート	課題提出	取り組み姿勢			
	80%	—	10%	10%			
教員実務経験	航空機製造関連企業において国際共同開発を含む航空機開発・維持(構造設計/解析/試験)の実務経験						
学生へのメッセージ (150文字程度)	構造設計について詳細に学習するためには多くの時間を必要としますが、この教科ではその中でも最低限理解して欲しいことに絞って学んでもらいます。基礎的なことも多いですが復習をしっかりして頂き、各種の設計法についての理解を深めて下さい。						
教科書	書名	新訂 機械要素設計入門1			書名		
	書名	講義資料(プリント等)			書名		
参考書	書名				書名		
	書名				書名		

授業計画 (各回ごとの項目と内容について)		
回=90分	項目	内容
1	機械と設計	機械のしくみ
2		機械と器具、機械のなりたち、機械要素
3		機械設計、コンピュータの活用、設計留意点
4	安全・環境と設計	安全・安心と設計
5		設計に必要な知識、設計と製造
6	機械に働く力	力の合成と分解
7		力のモーメント、偶力
8		力の釣合い、静力学平衡式
9		面積と図心
10	運動	速度と加速度
11		落下運動、運動の法則
12	仕事と動力	仕事の定義、道具や機械(てこ、輪軸)
13		道具や機械(滑車、斜面)、仕事の原理
14		エネルギー保存則、動力
15		仕事の効率
16	材料の強さ	荷重、応力、ひずみ、縦弾性係数
17		せん断応力、せん断ひずみ、横弾性係数
18		熱応力、材料の破壊と強さ
19		応力集中、基準強さ、安全率
20		はりの種類、反力、せん断力
21		曲げモーメント、SFD、BMD
22		曲げ応力、断面二次モーメント(断面係数)
23		はりのたわみ
24	機械要素	機械要素
25		機械要素(ねじの基本と種類、ボルトとナット)
26		締結留意点、緩み止め、ボルトの設計
27		軸とキー、ピン、軸継手
28		軸受と密封装置(シール他)
29	構造設計と構造試験	構造設計・解析と構造試験の関係
30		構造試験計事例、授業総括(まとめ)

2025 シラバス(科目概要・授業計画)

科目区分 専門科目

学科・コース名	エアロスペース科			開講時期	3年次	前期
授業科目名	航空工学Ⅱ-1		担当教員名	小杉 健一		
授業形態	講義	授業時数	30	単位数	2	選択必修区分 必修
授業概要 (目的・テーマ等) (150文字程度)	航空宇宙関係の設計・製造分野で仕事をするためには、航空機の各種システムに関する全般的な知識が必要である。このため、航空機の構造、操縦システム、エンジンシステム、電子・電気に関連するシステムなどについて総合的に解説し、航空機におけるシステムの位置付けを把握し、その重要性を理解する。					
到達目標 (150文字程度)	航空機の各種システムの概要、機能、重要性などを概略説明でき、また、将来仕事をするときに、専門用語がでてきても困らない程度の知識レベルを目指す。					
評価方法	定期試験		その他の評価方法			
	筆記試験	レポート	取り組み姿勢			
	80%		20%			
教員実務経験	航空機製造企業において航空宇宙機の機体開発の実務経験					
学生へのメッセージ (150文字程度)	会社に入ったとき、専門学校校出であることで、航空機の専門的基礎知識を持っていることを前提に先輩諸氏は話すことが予想され、これに対応できる程度の知識を持って社会に出て行って欲しい。そのためには、本講義にて航空機の基礎知識レベルの獲得を目指してほしい。					
教科書	書名	図解・飛行機のメカニズム(講談社)		書名		
	書名			書名		
参考書	書名			書名		
	書名			書名		

授業計画 (各回ごとの項目と内容について)		
回=90分	項目	内容
1	全般	航空機システム全体を知っておく必要性、どのような系統から構成されているかなどを把握させる
2	構造	航空機構造の全体構成、胴体、主翼、尾翼等の構造につき、その特徴、部材構成などを把握させる
3	操縦全般	航空機操縦系統全般を説明し、一次操縦系統について特徴などを把握させる
4	操縦系統	航空機の二次操縦系統について特徴などを理解させ、かつ操縦系統の重要性を理解させる
5	油圧系統	航空機の油圧系統につきシステム構成、特徴などを把握させ、その重要性を理解させる
6	降着系統	航空機の降着系統につきシステム構成、特徴などを把握させ、その重要性を理解させる
7	計器系統	操縦に欠かせない航空計器につき基本的作動原理を把握させ、計器の基本的な動きを理解させる
8	電気系統	飛行機の電気系統に関して、電源が直流・交流両用であること、その仕様・配置などを把握させる
9	動力系統	主にジェットエンジンに関して構造、仕組みなどを解説し、補機も含めて動力系統全般を把握させる
10	燃料・潤滑系統	ジェットエンジン燃料供給システムの概要、エンジン回転部の潤滑システムの概要につき把握させる
11	空調・与圧系統	大型旅客機に必須のキャビンへの空調及び与圧の仕組みにつき把握させる
12	防・除氷系統	翼や空気取り入れ口、ピトー管などへの着氷を防ぐための仕組みを把握させる
13	アビオニクス(1)	情報を扱うデータベースの種類・仕組、航空機の飛行管理等に関わるシステム構成などを把握させる
14	アビオニクス(2)	航空機が運航するため必要な通信系統及び航法系統の概要、仕組みを把握させる
15	装備技術	装備品の入出力を伝達する、配線・配管の要素部品と連結方法を把握させる。

2025 シラバス(科目概要・授業計画)

科目区分		専門科目				開講時期	3年次	後期
学科・コース名	エアロスペース科							
授業科目名	航空工学Ⅱ-2			担当教員名	吉森 文夫			
授業形態	講義	授業時数	30	単位数	2	選択必修区分	必修	
授業概要 (目的・テーマ等) (150文字程度)	航空機の分類の中の一つであるヘリコプタについての工学は、航空機にかかわる基礎工学の一つであり、重要な項目である。ヘリコプタ工学は、ヘリコプタの設計、製造、検査等する際には、一般的な共通知識であり、基本事項をしっかりと理解して習得する。							
到達目標 (150文字程度)	ヘリコプタについて、その概要、空気力学、荷重と強度、構造と材料、エンジン・トランスミッション、振動と騒音等の基本技術を習得することを目標とする。							
評価方法	定期試験			その他の評価方法				
	筆記試験	レポート						
教員実務経験	航空製造会社にて機体製造に従事							
学生へのメッセージ (150文字程度)	日本は世界でも有数のヘリコプタ保有国である。国内には、三菱重工、川崎重工、SUBARU等の企業があり、ヘリコプターの国産開発・製造、国際共同開発・製造、ライセンス生産が活発に行われており、今後大きく成長するものと思われる。予習と復習をしっかりと、授業を受けていただき、ヘリコプター工学についての基礎技術をしっかりと習得してください。							
教科書	書名	航空工学講座11 ヘリコプタ(日本航空技術協			書名			
	書名	図解 ヘリコプタ (講談社 ブルーバックス			書名			
参考書	書名				書名			
	書名				書名			

授業計画 (各回ごとの項目と内容について)		
回=90分	項目	内容
1	ヘリコプタの概要	ヘリコプタの発達、用途、定義、分類と特性、用途、耐空類別、飛行方式
2		国産ヘリコプタの概要
3	ヘリコプタの空気力学	ローターブレードの空気力学
4		飛行時の空気力学(1/2)
5		飛行時の空気力学(2/2)
6	ヘリコプタの荷重と強度	静荷重と静強度
7		疲労荷重と疲労強度
8	ヘリコプタの構造と材料	機体構造
9		ローター構造
10		構造材料
11	ヘリコプタのエンジン トランスミッション	エンジン
12		トランスミッション
13	ヘリコプタの振動と騒音	振動
14		騒音
15	総括	総復習、重要事項の確認

2025 シラバス(科目概要・授業計画)

科目区分 専門科目

学科・コース名	エアロスペース科				開講時期	3年次	前期
授業科目名	航空工学特論 I			担当教員名	三木 陽一郎		
授業形態	講義	授業時数	30	単位数	2	選択必修区分	必修
授業概要 (目的・テーマ等) (150文字程度)	企業就職を迎え航空宇宙産業の歴史と現状を学ぶとともに、航空機の高速化に対応して高速空気力学、性能設計の実際、次に航空機最終検査項目の一つである重量・重量重心について学習する。また、航空宇宙業界の最新技術動向について、航空機、ジェットエンジン、構造・材料技術等を例にとり学習するとともに過去の事故事例を学ぶ。						
到達目標 (150文字程度)	航空宇宙産業の歴史と現状を理解したうえで、航空工学のより専門的な事項を習得することを目的とする。高速空気力学、性能計算の実際、重量・重量重心等の基礎技術を習得する。航空工学の最新技術動向と航空機事故についてトピックスを通じて理解し、習得する。						
評価方法	定期試験		その他の評価方法				
	筆記試験	レポート					
	100%						
教員実務経験	企業において、航空機の開発経験						
学生へのメッセージ (150文字程度)	国内には、三菱重工、川崎重工、SUBARU等の企業があり、航空機の国産開発・製造、国際共同開発・製造が活発に行われており、今後大きく成長するものと思われる。予習と復習をしっかりと、授業を受けていただき、航空工学のより専門的な事項についての基礎技術をしっかりと習得してください。						
教科書	書名	航空力学(日本航空技術協会)			書名		
					書名		
参考書	書名	航空宇宙工学便覧(日本航空宇宙学会)			書名		
	書名	航空機構造設計(M.C.Y.ニウ)			書名		

授業計画 (各回ごとの項目と内容について)		
回=90分	項目	内容
1	航空宇宙産業の歴史と現状	世界の航空機産業の歴史と現状
2		日本の航空機産業の歴史
3		日本の航空機産業の現状
4	近年の旅客機開発	ボーイング、エアバス
5		MHI,KHI
6		スバル、IHI
7	航空機の事故事例集	ツエッペリン、コメット、コンコルド
8		日航機、ヘリオス航空、インドネシア・エアアジア
9		レッドウイングス航空、エールフランス、ブリティッシュ・エアウェイズ
10		アルジェリア航空、アラスカ航空
11	重量・重量重心	重量・重量重心計算
12		重量重心
13	高速空気力学	音速、マッハ数
14		圧縮性流れ、衝撃波、ラム/スクラムジェットエンジン
15	総括	総復習、重要事項の確認

2025 シラバス(科目概要・授業計画)

科目区分 専門科目

学科・コース名	エアロスペース科			開講時期	3年次	後期
授業科目名	航空工学特論Ⅱ		担当教員名	三木 陽一郎		
授業形態	講義	授業時数	30	単位数	2	選択必修区分 必修
授業概要 (目的・テーマ等) (150文字程度)	航空機の飛行荷重、航空機の性能は、航空力学にかかわる工学の一つであり、重要な項目である。したがって、航空機の設計、製造、検査する際には、一般的な共通知識であり、その基本事項をしっかりと理解し習得する。					
到達目標 (150文字程度)	揚力と抗力、翼と翼型、安定性、性能など航空力学の基本的事項を習得することを目的とする。					
評価方法	定期試験		その他の評価方法			
	筆記試験	レポート				
	100%					
教員実務経験	企業において航空宇宙機の開発経験					
学生へのメッセージ (150文字程度)	国内には、三菱重工、川崎重工、SUBARU等の企業があり、航空機の国産開発・製造、国際共同開発・製造が活発に行われており、今後大きく成長するものと思われる。予習と復習をしっかりと、授業を受けていただき、航空機の飛行荷重、航空機の性能についての基礎技術をしっかりと習得してください。					
教科書	書名	航空力学(日本航空技術協会)		書名		
	書名			書名		
参考書	書名	航空力学の基礎(産業図書)		書名		
	書名	航空宇宙工学入門(森北出版)		書名		

授業計画 (各回ごとの項目と内容について)		
回=90分	項目	内容
1	航空力学基礎(その1)	ベルヌーイの定理、ナヴィエ・ストークスの方程式、マッハ数
2	航空力学基礎(その2)	レイノルズ数、クッタ・ジュコーフスキーの定理、ブラントル数
3	航空力学基礎(その3)	レイノルズ数、ブラントル数、ベルヌーイの定理の計算練習
4	揚力と抗力(その1)	揚力の原理、連続の方程式、ベンチュリ管、マグヌス効果
5	揚力と抗力(その2)	揚力、ベンチュリ管、連続の方程式の計算練習
6	揚力と抗力(その3)	コアンダ効果、流線曲率の定理、循環理論、翼と循環
7	翼と翼型(その1)	翼と各部の名称、縦横比、翼型
8	翼と翼型(その2)	揚力係数、抗力係数、空力中心と空力モーメント、高揚力装置
9	安定性(その1)	静安定と動安定、水平尾翼、縦の動安定
10	安定性(その2)	方向安定、横安定、横の動安定、縦の安定性
11	操縦性	操縦性、舵、操舵力の適切化、縦の操縦、横及び方向の操縦、操縦性とプロペラ
12	性能(その1)	性能、速度、馬力
13	性能(その2)	上昇性能、旋回、巡航
14	性能(その3)	降下、離陸、着陸
15	総括	総復習、重要事項の確認

2025 シラバス(科目概要・授業計画)

科目区分 専門科目

学科・コース名	エアロスペース科				開講時期	3年次	後期
授業科目名	宇宙工学特論			担当教員名	三木陽一郎		
授業形態	講義	授業時数	30	単位数	2	選択必修区分	必修
授業概要 (目的・テーマ等) (150文字程度)	現在において通信・放送・気象・測位・地球観測さらにはこれらを含んだ安全保障の分野で人工衛星はなくてはならないインフラである。そこで1年次に宇宙工学の基礎を学んだ学生を対象に人工衛星のミッション、特に安全保障分野においてどのように人工衛星が応用されているかについて学ぶ。						
到達目標 (150文字程度)	最新の人工衛星のミッションと機能・性能を把握し、日本を取り巻く世界各国の安全保障の現状を理解する。						
評価方法	定期試験			その他の評価方法			
	筆記試験	レポート	取り組み姿勢				
	80%		20%				
教員実務経験	航空宇宙関連企業にてH-IIロケットの開発や宇宙ステーション補給機「こうのとり」の開発、打上作業の実務経験						
学生へのメッセージ (150文字程度)	人工衛星に代表される宇宙機のミッションは多岐に渡っています。それらを学ぶとともに日本及び世界各国の安全保障分野における衛星の利用状況を理解しましょう。						
教科書	書名	図説 宇宙工学			書名		
	書名				書名		
参考書	書名	令和4年度防衛白書			書名		
	書名				書名		

授業計画 (各回ごとの項目と内容について)		
回=90分	項目	内容
1	防衛白書の中の宇宙	安全保障環境における宇宙領域をめぐる動向
2	宇宙領域と安全保障	安定的な衛星運用に対する障害
3	世界の防衛用衛星 -情報収集衛星	画像情報収集衛星と信号情報収集衛星
4	世界の防衛用衛星 -早期警戒衛星、気象衛星	早期警戒衛星の役割、機能、性能および安全保障分野における気象衛星の役割
5	世界の防衛用衛星 -通信衛星	安全保障分野における通信衛星の役割
6	世界の防衛用衛星 -測位衛星	安全保障分野における測位衛星の役割
7	衛星に対する攻撃	人工衛星に対する妨害とその対策
8	人工衛星開発 -C&DH、電源系	人工衛星の全体システムとサブシステム-通信系、電源系の機能、性能
9	人工衛星開発 -姿勢制御系、推進系	人工衛星のサブシステム-姿勢制御系、推進系の機能、性能
10	人工衛星開発 -構体系、熱制御系	人工衛星のサブシステム-姿勢制御系、推進系の機能、性能
11	開発モデルと試験	人工衛星の各種開発モデルと開発試験の種類、内容
12	安全・信頼性保証	故障低減の方策や信頼性解析の手法
13	品質管理	品質管理の方法、EEE部品、RSSとガウス分布
14	有人安全設計	ハザードの分類、1故障許容設計と2故障許容設計
15	総括	半年間の復習と試験前対策講座

2025 シラバス(科目概要・授業計画)

科目区分		専門科目				開講時期	3年次	後期
学科・コース名	エアロスペース科							
授業科目名	生産システム			担当教員名	小杉 健一			
授業形態	講義	授業時数	30	単位数	2	選択必修区分	必修	
授業概要 (目的・テーマ等) (150文字程度)	新機種の生産準備で必要になる次の事項について、実例の図表を参照しながら解説し、航空機生産の全体像を理解する。 * コスト見積りと慣熟逓減 * 製造分割、設備・工場計画、日程、工事計画 * 治工具計画 * 構造組立と組立治具							
到達目標 (150文字程度)	航空機生産には、部品点数の多さ、品質要求の厳しさ、少量生産などの特徴があり、これらの特徴に対応した生産システムが構築されている。これまでの講義および実習で個別の製造技術・技能や機械産業一般の生産管理について学んできたが、本講義では航空機産業における生産システムに特徴的な事項について解説し、航空機生産に関わる様々な業務の流れと概要を理解する。							
評価方法	定期試験			その他の評価方法				
	筆記試験	レポート		取り組み姿勢				
	80%			20%				
教員実務経験	航空機製造企業において航空宇宙機の機体開発の実務経験							
学生へのメッセージ (150文字程度)	2年生で「生産管理」として 生産士3級(小グループのリーダー向け)の内容を学びましたが、本講義では航空機産業に絞って生産士2級～1級相当(工場運営・新工場立ち上げ)の内容を概説します。就職後の各職場において、全体の仕事の流れや上司・先輩の言動の背景を理解し、将来 職場を引っ張っていく立場へ成長するために役立ててください。							
教科書	書名	航空機生産工学(オフィスHANS)			書名			
	書名				書名			
参考書	書名				書名			
	書名				書名			

授業計画 (各回ごとの項目と内容について)		
回=90分	項目	内容
1	生産システム概要	構造分割 既存機の製造 新型機の開発
2	日本の航空機産業	戦前・戦後の日本の航空機産業 日本の航空機産業の特徴と規模
3	コスト見積り	製造計画の概要
4		コスト見積り手順
5		コスト見積りと慣熟逓減曲線
6		民間航空機のコスト見積りと損益分析
7	製造計画	製造分割・区分と組立計画
8		建屋と設備計画 工場配置
9		日程計画
10		工事計画
11	治工具計画	治工具とは? 治具の目的 治具装備規模と工数低減
12		ツーリングの展開 治具の概要
13	構造組立	航空機製造の流れ 組立の要素作業と自動化
14		組立工程の例
15		新しい構造組立 組立治具

2025 シラバス(科目概要・授業計画)

科目区分 専門科目

学科・コース名	エアロスペース科			開講時期	3年次	前期
授業科目名	基本実習Ⅱ-1		担当教員名	太田 光・高木 真一路		
授業形態	実習	授業時数	60	単位数	1	選択必修区分 必修
授業概要 (目的・テーマ等) (150文字程度)	1年次に教育した基礎知識、技能等をベースにし、航空機生産技術者として即戦力となるような構造組立の基本技術を習得する。					
到達目標 (150文字程度)	アルミ板への穴あけのスキルを上げるとともに、コーナードリルやロング・シャンク・ドリルの取り扱いについて学ぶ。また、薄板の合わせ打鉋の穴の明け方・リベット打ち方や型材の修理の方法についても理解する。					
評価方法	定期試験			その他の評価方法		
	筆記試験	レポート	習熟度(実技スキルが基準の80%以上)			
	80%		20%			
教員実務経験	航空機製造会社において、航空機の組立・修理作業の実務経験 航空機製造会社において、航空機の組立・艀装及び工程管理関係の実務経験					
学生へのメッセージ (150文字程度)	多数の学生が航空機の製造関係企業に就職する実績を踏まえ、実践に即した実習を行い、即戦力の航空製造技術者として訓練します。					
教科書	書名	航空機製造技能者育成講座(構造組立初級)		書名		
	書名			書名		
参考書	書名	航空機の基本技術		書名		
	書名	航空機の基本技術入門 基本工具編		書名		

授業計画 (各回ごとの項目と内容について)		
回=90分	項目	内容
1	リスク・アセスメント	・災害防止対策の予防手段として、実例を挙げグループ演習を行う。
2		
3	リベット作業 (スキル・アップ)	・アルミ平厚板のけがきのスキルを上げる。
4		・アルミ平厚板の穴明けのスキルを上げる。(交点に対して0.5mm以内)
5		・コーナードリル使用のスキルを上げる。
6		・ロング・シャンク・ドリル使用のスキルを上げる。
7		・皿取り工具の使用と計測機器(フラッシュゲージ)の用法のスキルを上げる。
8		・皿取り工具の使用と計測機器(フラッシュゲージ)の用法のスキルを上げる。
9	リベット作業 (薄板合わせ結合)	・リベット打ち作業のスキルを上げる。
10		・リベット打ち作業のスキルを上げる。
11		・不具合のあるリベットに対する検査と切替え作業のスキルを上げる。
12		・不具合のあるリベットに対する検査と切替え作業のスキルを上げる。
13		・アルミ薄板合わせの穴明けの方法について習熟する。
14		・アルミ薄板合わせの作業工程について学ぶ。
15	リベット作業 (特殊リベット・工具)	・アルミ薄板合わせのパイロットホール穴明けの手順を習熟する。
16		・アルミ薄板合わせのパイロットホール穴明けの手順を習熟する。
17		・アルミ薄板合わせの正寸穴明けの手順を習熟する。
18		・アルミ薄板合わせの皿取り手順を習熟する。
19		・アルミ薄板合わせのリベット打ちの手順を習熟する。
20		・アルミ薄板合わせの不具合のあるリベットに対する検査と切替え作業を習熟する。
21	構造修理 (アングル修理)	・構造修理の成形方法について理解する。
22		・構造修理の修理方法について理解する。
23		・損傷したアングル材を想定し、修理作業を行う。
24		
25		
26		
27	リベット作業 (特殊リベット・工具)	・プレートナット治具の取り扱いについて復習する。
28		・スクイザーの取扱いについて復習する。
29		・ハイライトファスナーについて復習する。
30		・特殊リベットについて復習する。

2025 シラバス(科目概要・授業計画)

科目区分 専門科目

学科・コース名	エアロスペース科			開講時期	3年次	後期
授業科目名	基本実習Ⅱ-2		担当教員名	太田 光・吉森 文夫		
授業形態	実習	授業時数	60	単位数	1	選択必修区分 必修
授業概要 (目的・テーマ等) (150文字程度)	1年次に教育した基礎知識、技能等をベースにし、企業が求める航空機生産技術者として即戦力となる人材育成を図るため、更なる高度な構造組立技術を習得する。					
到達目標 (150文字程度)	航空機の製造現場で頻度の高い作業内容(シーリング、表面処理等の特殊工程)の基礎となる知識と実習を行う。また、3年間の実習の集大成として課題製品を製作し、工程管理や納期を意識した実習を行うことで即戦力となる航空製造技術者をを目指す。					
評価方法	定期試験		その他の評価方法			
	筆記試験	レポート	習熟度(実技スキルが基準の80%以上)			
	80%		20%			
教員実務経験	航空機製造会社において、航空機の組み立て・修理の実務経験 航空機製造会社において、航空機の組立・艀装及び工程管理関係の実務経験					
学生へのメッセージ (150文字程度)	多数の学生が航空機の製造関係企業に就職する実績を踏まえ、実践に即した実習を行う。また、課題を提示し製品を製作するだけでなく、その製作手順を考えたり納期を考慮した工程管理も学びます。					
教科書	書名	航空機製造技能者育成講座(構造組立初級)		書名		
	書名			書名		
参考書	書名	航空機の基本技術		書名		
	書名	航空機の基本技術入門 基本工具編		書名		

授業計画 (各回ごとの項目と内容について)		
回=90分	項目	内容
1	シーリング・表面処理	・特殊工程の一つであるシーリング作業の目的や種類と取扱い上の注意事項を理解させる。
2		・表面処理の目的、腐食の種類と除去方法、その他の表面処理(陽極処理、塗装、メッキ)の概要を学ぶ。
3		・シールガンを使用したフィレット・シールと接着面シール作業を実施する。
4		
5		・腐食したアルミ平板材の除去方法と化成皮膜処理を実習を通して理解する。
6		
7	総合実習1	・課題製品作成するに当たり、作業内容及び工程管理表について理解する。
8		・ケガキ、バルトン・ヤスリ作業にて規程の寸法に仕上げる。
9		
10		・ドリルガイドを使用した穴あけ・皿取り等について、要求される精度に仕上げる。
11		
12		・リベット内作業を行う。
13		
14		
15		
16		・シーラント作業を行う。
17	総合実習2	・ペン立て、スマホスタンド製作の作業手順と納期を考慮した工程管理表を各自作成する。
18		・ペン立てのケガキ、穴あけを行う。
19		
20		・板の曲げ作業を行う。
21		
22		・リベット打ち、検査及び清掃・塗装を行う。
23		
24		総合実習3
25	・板の切断及び板曲げを行う。	
26		
27	・検査及び清掃・塗装を行う	
28		
29		
30		

2025 シラバス(科目概要・授業計画)

科目区分 専門科目

学科・コース名	航空生産科			開講時期	3年次	前期
授業科目名	検査工学Ⅱ(浸透探傷検査)	担当教員名	太田 光			
授業形態	実習	授業時数	60	単位数	1	選択必修区分 選択
授業概要 (目的・テーマ等) (150文字程度)	座学及び実習によって、下記事項の習得を図る。 1: 浸透探傷試験を用いた、アルミや鋳鋼品の表面欠陥探傷方法の原理、意義の理解。 2: 実際の探傷要領(迅速かつ的確な傷の位置大きさの確認及び欠陥評価要領)の把握。 3: 様々な探傷方法にあわせた指示書作成。					
到達目標 (150文字程度)	浸透探傷装置の器材、標準試験片・対比試験片の役割、浸透探傷試験の選定方法、きずの種類及び検出方法及び記録・評価方法を理解し浸透探傷試験レベル2の資格試験の合格。					
評価方法	定期試験			その他の評価方法		
	筆記試験	レポート	作業習熟度			
	70%		30%			
教員実務経験	航空機製造メーカーの実務経験を生かして浸透探傷試験の基礎から応用までの教育を行う。					
学生へのメッセージ (150文字程度)	NDI(一般社団法人日本非破壊検査協会)主催の資格試験の受験を得るためにNDIに定められたシラバスに基づいて授業を展開します。座学、実習及び実習指導説明に対し積極的に学習に取り組み、自主的に実習推進を図ってください。					
教科書	書名	浸透探傷試験Ⅱ2018	書名	浸透探傷試験Ⅱ問題集2019		
	書名		書名			
参考書	書名		書名			
	書名		書名			

授業計画 (各回ごとの項目と内容について)		
回=90分	項目	内容
1	浸透探傷試験の基礎	序論・試験方法の原理と関連知識について
2		
3	探傷装置	製品知識及び製法とその技術の能力・装置について
4		
5	探傷装置	エアゾールスプレー缶・ブラックライト、紫外線強度計、照度計・対比試験片・試験体に関する情報・試験条件・観察条件(JIS Z 2323)について
6		
7	試験方法の選定	検査の時期と目的、対象きずと試験条件、手順書と指示書の目的、前処理、浸透処理について
8		
9	試験方法の選定	乳化処理、洗浄処理、除去処理、現像処理、乾燥処理、再試験、後処理について
10		
11	試験方法の選定	浸透探傷試験の利点、浸透探傷試験の欠点、浸透液の分類による浸透探傷試験方法・水洗性浸透探傷試験・後乳化性浸透探傷試験・溶剤除去性浸透探傷試験・高感度蛍光浸透液を使用した蛍光浸透探傷試験・高温用探傷剤を使用した浸透探傷試験の特徴、利点欠点について
12		
13	評価と報告・きずの影響	評価と報告の概略、評価の基本(JIS Z 2323による観察、JIS Z 2343-3による対比試験片、その他の対比試験片)、指示模様の解釈、指示模様の評価、報告、試験条件、きずの評価、各種きずと指示模様の形状について
14		
15	きずの影響・品質管理	材料の強度、破壊とその影響、管理すべき事項、試験技術者の管理、試験設備の管理、指示書、関連規格について
16		
17	環境と安全	安全衛生(安全データシート)の有機溶剤の取り扱い・現像剤粉末・火災予防・消火器・廃水処理、紫外線・安全データシート、消防法による分類と指定数量及び引火点、エアゾール製品の管理について
18		
19	溶剤除去性染色浸透探傷試験	アルミ溶接部及び熱影響部の溶剤除去性染色浸透探傷試験の実技。
20		
21	水洗性蛍光浸透探傷試験	機械加工品の水洗性蛍光浸透探傷試験の実技。
22		
23	後乳化性蛍光浸透探傷試験	パイプ材の後乳化性蛍光浸透探傷試験の実技。
24		
25	指示書作成方法	溶剤除去性染色浸透探傷試験、水洗性蛍光浸透探傷試験、後乳化性蛍光浸透探傷試験の指示書作成について
26		
27	資格試験対策	浸透探傷試験問題集の解説と質疑応答
28		
29	前期試験対策	前期試験の試験範囲の説明と質疑応答
30		

2025 シラバス(科目概要・授業計画)

科目区分 専門科目

学科・コース名	エアロスペース科			開講時期	3年次	通年
授業科目名	機械加工II(CAM応用)	担当教員名	田羽多 勝典			
授業形態	実習	授業時数	120	単位数	3	選択必修区分 選択
授業概要 (目的・テーマ等) (150文字程度)	関係する日本工業規格(JIS)に基づくNCプログラムと加工技術基礎の習熟とNC加工で多用されるCAMソフトMastercamの操作法と利用方法を習熟する。なお、この実習ではソフトウェア習熟に併せてNC加工機(ミリングタイプ)による各種加工実験に取り組み加工条件に関する知識を習得する。					
到達目標 (150文字程度)	現代の機械加工で必須となっている数値制御による加工技術について、金属加工IIではCAM(Computer Aided Manufacturing)の基礎概念を学び、数値制御加工を試行的に体験した。本科目では、この基礎を実習した学生が実務に対応するCAMソフトの詳細知識とNCプログラム作成技術およびNCミリング加工技術を習得し、最終的に創造的な作品を加工し製作することを目標とする。					
評価方法	定期試験		その他の評価方法			
	筆記試験	レポート	取り組み姿勢	操作習熟度	プログラム性能	作品品質
			10%	10%	20%	60%
教員実務経験	航空機設計企業において航空機及び複合材部品設計の実務経験、自動車部品製造企業において部品設計の実務経験					
学生へのメッセージ (150文字程度)	実習用サーバー中の解説ファイル、演習問題ファイル、手順説明ファイルをもとに授業を展開します。座学、実習及び実習指導説明に対し積極的習得、学習に取り組み、自主的に実習推進を図って下さい。					
教科書	書名	解説資料、訓練資料(プリント)		書名		
	書名			書名		
参考書	書名			書名		
	書名			書名		

[ごとの項目と内容について]		
回=90分	項目	内容
1	CAM関係技術など基本知識	工具の種類、工具交換方法、材料ごとの切削条件に関する知識の習得
2		
3	NCコード及び加工条件関係知識習得実習	主なGコード 絶対座標と相対座標、座標系、工具出発点、直線補間の習得
4		
5		
6		
7		主なGコード 直交座標、円弧、高速移動、切削条件の習得
8		主なGコード 切削速度、主軸回転数、送り速度の習得
9		主なGコード 工具選択、工具長補正、主軸の起動と停止、一時停止/緊急停止とプログラム終了の習得
10		
11	金型の作成	パーティングサーフェス付き扁平楕円体メス型の金型作図技術の習得
12	Mastercam操作実習(A) 「四角すい」	四角すいを用いた、「回転」と「平行移動」の習得。View画面が異なることの理解。
13		
14	Mastercam操作実習(B) 「立方体の断面」	立方体を作成し斜面で切断し、その断面を表示させる技術の習得
15		
16	Mastercam操作実習(C) 「各種ツールパス作成法」	2年生では使用しなかった「進入/退出」の使い方の習得 エンドミルの歯数と送り速度の関係 一時停止/緊急停止の方法、および緊急停止後の後処置の習得 裏面加工時の原点の合わせ方の習得
17		
18		
19		
20	応用加工1(プロペラ)	回転翼、回転軸、先端CAP、結合部から構成される空気で回転するプロペラの加工プログラム作成と製作実習を行う。 または学生からの提案があればその創造的な作品を製作する。 部品の組立公差、仕上げ加工の基礎について習得する。 複数の工具がある場合のNCコードへの変換方法について習得する。
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		

回=90分	項目	内容
29	応用加工2(パズルボール)	7つの部品から構成されるパズルボールのツールパスプログラミングと製作実習を行う。 または学生からの提案があればその創造的な作品を製作する。 複雑な形状の原点設定方法とZ0センサを用いないZ方向原点の合わせ方について学習する。 部品の組立公差、仕上げ加工の基礎について習得する。
30		
31		
32		
33		
34		
35		
36		
37		
38		
39	自由課題－作図	航空宇宙関連の自由課題を設定し計画図、組立図、部品図を作成しツールパスプログラミングを実施する。 材質による加工パラメータの違いを理解し、加工時間短縮の方法を学習する。
40		
41		
42		
43		
44		
45	自由課題－製作	複雑な形状のSTOCKを平バイスに取り付け、正確に原点を設定する方法について学習する。 緊急停止等で電源を落とした後の処置について学習する。 糸鋸の使用方法について学習する。 MDX-540の作動範囲について学習する。 自作治具を製作する際の注意事項について学習する。
46		
47		
48		
49		
50		
51		
52		
53		
54		
55		
56		
57		
58		
59	組立－評価	やすり掛け、仕上げ加工およびインターフェイスの調整方法について学習する。
60		

2025年度 シラバス(科目概要・授業計画)

科目区分 専門科目

学科・コース名	エアロスペース科			開講時期	3年次	通年
授業科目名	航空機組立実習		担当教員名	高木 真一路		
授業形態	実習	授業時数	120	単位数	3	選択必修区分 選 択
2020シラバス (概要・授業計画)	本教科は、1年次に学んだ「基本技術」、2年次に学習した金属加工Ⅲ(主翼組立)を応用して、米国バーンズ社の軽飛行機 RV-4の組立キットを使用して、その構造と組立手順を学び、学生が自らの手で組立技術を体験すると共に最新の板金加工法、組立構造、組立順序、作業手順、生産管理等、企業に就職したときに即戦力として作業に従事できるための基礎知識を習得する。					
到達目標 (150文字程度)	実習を通して機体構造の概要を習得し図面・マニュアルなどの理解、大切さを学ぶ。航空機の組立技術を体験させ製品を作る場合の予備知識、作業要領の大切さを習得させる。作業に関心を持たせ、創造力を培い責任感を学ぶ。実習を通じて、社会人としての心得を習得する。					
評価方法	定期試験			その他の評価方法		
	筆記試験	レポート	ミニテスト前3回後3回	実習姿勢、習熟度	作品の出来栄	
			30	40	30	
教員実務経験	航空機製造企業において航空機製造の実務経験あり。					
学生へのメッセージ (150文字程度)	RV-4飛行機を実機で学べる最高の実習である。2年生で学んだ主翼組立とは違い米国VAN'S社の図面、マニュアルを使い学生が自主的に作り上げていく楽しみを学んでほしい。、実際に図面を見ると英語の名称で書かれているので苦勞すると思うがミニテストで実力をつけること望む。無駄な時間はない社会人になる前の大事な実習である。					
教科書	書名	RV-4 組立図面		書名		
	書名	配布プリント(PDF)		書名		
参考書	書名	航空機の基礎技術		書名	RV-4組立図面	
	書名	(日本航空技術協会)		書名	CONSTRUCTION MANUAL	

授業計画 (各回ごとの項目と内容について)		
回=90分	項目	内容
1	RV-4機の概要	RV-4機の概要説明。実習の進め方。評価方法の説明。
2		
3	4号機 組立実習	1、治工具の目的
4		4号機から新しく治工具が出来たので製品とチェックしながら作業を進める
5		治具図面と組立図面との違いを学ぶ
6		治工具の重要性を指導する
7		2、胴体組立の実習
8		・中部胴体の組立
9		艀装(リギング)調整の教育
10		図面の見方、マニュアルの判読 DWG NO 28、29、36 30. 34. 35、37
11		工具の名称、使い方の指導 安全対策(保護メガネ・耳栓)教育実践
12		ROLL CAGE DWG36
13		コックピット内部組立作業
14		・飛行計器組立
15		RV-4機制作マニュアル(サプメント)による指導
16		
18		
19		
20		
21		

22	項目	内 容
回=90分	4 号 機 組 立 実 習	3、主翼を胴体に取り付ける実習
23		<ul style="list-style-type: none"> ・左主翼組立の実習
24		燃料構造の特異性を教育。 図面の見方、マニュアルの判読 DWG 9、19
25		工具の名称、使い方の指導 安全対策(保護メガネ・耳栓)教育実践
26		フラップ、エルロン機体との連結作 動翼取付調整
27		<ul style="list-style-type: none"> ・右主翼組立の実習
28		燃料構造の特異性を教育。 図面の見方、マニュアルの判読DWG 9、19
29		工具の名称、使い方の指導 安全対策(保護メガネ・耳栓)教育実践
30		フラップ、エルロン機体との連結作 動翼取付調整
31		4、4号機キャノピー組立・取付作業
32		<ul style="list-style-type: none"> ・キャノピー組立作業 前年度の継続) (残作業 :10%)
33		図面の見方、マニュアルの判読 DWG 41, 42
34		工具の名称、使い方の指導 安全対策(保護メガネ・耳栓)教育実践
35		強化プラスチック製なので厳重取り扱いとする
36		胴体コックピットへの取付検証
37		
38		
39		
40		
41		
42		
43		
44		
45		
46		
47		
48		
49		
50		
51		
52	3号機	1、機体最終仕上げ
53		メンテナンス作業
54		タイヤ回し
55		
56		
57		
58		
59		
60		

2025 シラバス(科目概要・授業計画)

科目区分 専門科目

学科・コース名	航空生産科			開講時期	3年次	通年
授業科目名	CAD実習Ⅲ		担当教員名	中川 優子		
授業形態	実習	授業時数	120	単位数	3	選択必修区分 選択
授業概要 (目的・テーマ等) (150文字程度)	3次元CADを利用している企業は年々増加傾向にあるとともに、3次元CADを利用した設計が急速に進展している背景にある。その背景に伴い、3次元CADを用いた実務的な設計業務や生産技術業務を遂行できる技術者育成が急務となっている。そこで本授業においては、これまでに経験した設計能力を基盤として、3次元CADを用いたさらに高度な技術やより実践的な能力を身に付けることを目的とする。					
到達目標 (150文字程度)	将来を見据えた3次元CADのオペレーターとして、CATIA V5が扱える技術者の基盤をつくる。主に設計プロセスを意識したモデル作成や航空機という部品点数の多いアセンブリを効率的に扱える技術を身に付ける。また、3次元図面の読解力、応用力やその周辺知識を理解していくために、3次元CAD利用技術者試験2級及び準1級の資格取得を目指す。					
評価方法	定期試験			その他の評価方法		
	筆記試験	レポート	課題品質	取り組み姿勢		
			80%	20%		
教員実務経験	CATIA V5を使用した、自動車部品の新入社員教育(設計操作教育)、航空機の設計データ管理システム(PDM)の教育およびヘルプデスク業務に携わる。その他、各種CADシステム(AutoCAD、SOLIDWORKS、Inventor、Fusion360など)の操作教育、CAD資格の対策講座などを経験。					
学生へのメッセージ (150文字程度)	私がこれまで携わり、培ってきた3DCADを用いた設計に関する知識を、本授業を通じて皆さんに知ってもらい、身に付けていただくことを目標とします。その上で、3次元CAD利用技術者試験の資格取得を目指していきます。試験形態が2021年度から変更となり、2級及び準1級試験の併願ができなくなりましたが、筆記試験の2級に合格し、12月に行われるCATIA実技の準1級合格を目指して頑張っていきたいと思います。					
教科書	書名	3次元CAD利用技術者試験公式ガイドブック		書名		
	書名	配布プリント		書名		
参考書	書名			書名		
	書名			書名		

授業計画 (各回ごとの項目と内容について)		
回=90分	項目	内容
1	3次元CADについて	1年間の進め方、3次元CADの概要
2		CATIA V5の基本操作習得、基本ツールの説明
3	スケッチ作成	基本的なスケッチツールの学習
4		スケッチの編集や拘束の学習
5	パートデザインワークベンチ	パートデザインの概要
6		3次元の観点から基準となる要素{点/直線/平面}を作成する
7		ソリッドモデルの作成1{パッド、ポケット、穴、シャフト}
8		ソリッドモデルの作成2{フィレット、面取り、ドラフト}
9		ソリッドモデルの作成3{その他、主なツール}
10		ソリッドモデルの編集と演習問題
11	ジェネレーティブシェイプデザインワークベンチ	ジェネレーティブシェイプデザインの概要
12		基本的なツールの操作習得
13		ワイヤーフレームの作成
14		サーフェースの作成
15		作成モデルの応用及び操作、ツールの復習
16		
17		演習問題
18		
19	3次元CAD利用技術者試験 2級対策	2級試験の傾向と対策及び基本座学{3次元CADの概念、3次元CADの機能と実用的モデリング手法}
20		
21		基本座学{3次元CADデータの管理と周辺知識、3次元CADデータの活用}及び練習問題
22		
23		
24		過去問学習及び解説
25		
26		

回=90分	項目	内容
27	前期内容の確認及び演習課題	前期授業内容の復習/確認及び各自苦手分野の克服等
28		
29		前期課題演習
30		
31	パートデザインワークベンチ及びジェネレーティブシェイプデザインワークベンチの復習	各ワークベンチの復習、演習問題
32		
33		ワークベンチの切り替え、総合演習
34		
35	アセンブリデザインワークベンチ	アセンブリデザインの概要、構成要素(部品)の作成、移動及び組立て
36		
37		アセンブリーパーツの応用及び干渉チェック
38		
39		トップダウンデザインによるアセンブリ演習
40		
41		ボトムアップデザインによるアセンブリ演習
42		
43		演習問題
44		
45	3次元CAD利用技術者試験 準1級対策	準1級試験の傾向と対策及び準1級試験モデリング演習1(基本的なモデリング:問1対応)
46		
47		準1級試験モデリング演習2(空間把握能力問題:問2対応)
48		
49		準1級試験モデリング演習3(2次元図面からの作図能力問題:問3対応)
50		
51		準1級過去問学習
52		
53		準1級問題総合演習
54		
55	後期内容の確認及び1年間の総合演習課題	後期授業内容の復習/確認及び各自苦手分野の克服等
56		
57		1年間の総合課題実習
58		
59		
60		

2025 シラバス(科目概要・授業計画)

科目区分 専門科目

学科・コース名	エアロスペース科			開講時期	3年次	通年
授業科目名	検査工学Ⅱ (放射線透過検査)		担当教員名	吉森 文夫		
授業形態	実習	授業時数	90	単位数	2	選択必修区分 選択
授業概要 (目的・テーマ等) (150文字程度)	非破壊検査は航空宇宙産業における特殊工程として設備・検査員の認証対象とされ、その難易度から非常に重要視されている。また、他の工業界においても有資格技術者(JIS Z 2305による認証制度)が尊重される傾向が強まっている。本科目では放射線透過試験レベル2のカリキュラムに従って、講義と実習を通じて放射線技術者としての知識と技能を習得し、企業において即戦力となる人材を育成する。					
到達目標 (150文字程度)	JIS Z 2305 放射線透過試験レベル2の資格試験に合格すること。 また、放射線透過試験の理論及び、放射線の安全管理についての理解を深め、レベル2技術者としての知識及び能力を習得すること。					
評価方法	定期試験			その他の評価方法		
	筆記試験 70%	レポート	操作習熟度 30%			
教員実務経験	航空機製造の非破壊検査業務に従事					
学生へのメッセージ (150文字程度)	テキスト及び問題集に沿って授業を実施します。 解らないところは放置せずに積極的に質問し、資格試験合格のために授業に真摯に取り組んで下さい。					
教科書	書名	放射線透過試験Ⅰ 2019		書名	放射線透過試験Ⅰ 問題集2017	
	書名	放射線透過試験Ⅱ 2019		書名	放射線透過試験Ⅱ 問題集2017	
参考書	書名	放射線透過試験技術に関する写真及び解説		書名		
	書名			書名		

授業計画 (各回ごとの項目と内容について)		
回=90分	項目	内容
1	撮影の準備	散乱線を低減する方法
2	撮影配置	割れに対する照射角度と幾何学的不鮮明度(半影像)
3		試験部の有効長さときずの像の拡大率について
4		透過度計及び階調計の配置
5		管の円周溶接継手の撮影(内部線源、内部フィルム、二重壁片面撮影法)
6		T溶接継手の撮影配置
7		放射線透過試験
8	露出条件の修正について(X線フィルムが変更した場合)	
9	露出条件の修正について(濃度の修正する場合、焦点距離を修正する場合)	
10	肉厚さ(余盛)のある試験体の撮影	
11	アルミニウム管試験体の二重壁片面撮影の指示書の理解	
12	演習(アルミニウム管試験体の二重壁片面撮影)の実施	
13	演習(アルミニウム管試験体のきずの像の分類)の実施	
14	マイクロフォーカス等を用いた特殊撮影	
15	コントラストと識別性との関係、幾何学的補正係数について	
16	見掛けの焦点寸法と像の拡大	
17	透過写真の観察方法	
18	識別限界コントラストについて	
19	フィルム観察器の種類	

回=90分	項目	内容
20	アセスメント(評価)	ISO、ASTMの評価項目および、他の国家訓練規格について
21		透過写真の評価及び評価基準について
22		実技(アルミニウム管試験体1の二重壁片面X線撮影)
23		実技(アルミニウム管試験体1の二重壁片面)きずの像の分類
24		実技(アルミニウム管試験体2の二重壁片面X線撮影)
25		実技(アルミニウム管試験体2の二重壁片面)きずの像の分類
26		実技(アルミ鋳物試験体1)のX線撮影
27		実技(アルミ鋳物試験体1)のきずの像の分類
28		実技(アルミ鋳物試験体2)のX線撮影
29		実技(アルミ鋳物試験体2)のきずの像の分類
30		実技(アルミ鋳物試験体3)のX線撮影
31		実技(アルミ鋳物試験体3)のきずの像の分類
32		きずの像の解釈(鋼)
33		きずの像の解釈(アルミ)
34	きずの像の解釈(鋳鋼品、アルミ鋳物)	
35	品質アспект	技術者の資格(ISO9712及びJIS Z 2305による規定)
36		指示書の作成及び文書のトレーサビリティ
37		鋼平板溶接継手に対するNDT指示書の立案(その1)
38		鋼平板溶接継手に対するNDT指示書の立案(その2)
39		鋼平板溶接継手に対するNDT指示書の立案(その3)
40		鋼平板溶接継手に対するNDT指示書の立案(その4)
41		鋼平板溶接継手に対するNDT指示書の立案(その5)
42	鋳鋼品に対するNDT手順の立案	
43	放射線安全教育	放射線の安全に関する講義(放射線機器、施設、測定機器の点検)
44		有害放射線の低減方法
45	開発	CRやFPD、CTといったデジタル先端技術の紹介

2025 シラバス(科目概要・授業計画)

科目区分 専門科目

学科・コース名	エアロスペース科			開講時期	3年次	通年
授業科目名	検査工学Ⅱ (超音波探傷検査)		担当教員名	太田 光		
授業形態	実習	授業時数	90	単位数	2	選択必修区分 選択
授業概要 (目的・テーマ等) (150文字程度)	座学及び実習によって、下記事項の習得を図る。 1: 超音波を用いた、鋼材の内部欠陥探傷方法の原理、意義の理解。 2: 実際の探傷要領(迅速かつ的確な傷の位置大きさの確認及び欠陥評価要領)の把握					
到達目標 (150文字程度)	超音波探傷試験で使用される計算、超音波探傷器の器材、標準試験片・対比試験片の役割、探傷器の操作方法、きずの検出方法及び記録・評価方法などを理解し超音波探傷試験レベル2の資格試験の合格。					
評価方法	定期試験			その他の評価方法		
	筆記試験	レポート	操作習熟度			
	70%		30%			
教員実務経験	非破壊検査企業において様々な工業製品検査の実務経験を活かして超音波探傷試験の基礎から応用までの教育を行う。					
学生へのメッセージ (150文字程度)	NDI(一般社団法人日本非破壊検査協会)主催の資格試験の受験を得るためにNDIに定められたシラバスに基づいて授業を展開します。座学、実習及び実習指導説明に対し積極的に学習に取り組み、自主的に実習推進を図ってください。					
教科書	書名	超音波探傷試験Ⅰ 2017		書名	超音波探傷試験Ⅱ 問題集2019	
	書名	超音波探傷試験Ⅱ 2019		書名		
参考書	書名			書名		
	書名			書名		

授業計画 (各回ごとの項目と内容について)		
回=90分	項目	内容
1	NO.1問題集 問1～問33	問題集より解答する時間を設け、個々で回答できない問題については解説をして解き方を理解する。
2		
3	NO.1問題集 問34～問67	問題集より解答する時間を設け、個々で回答できない問題については解説をして解き方を理解する。
4		
5	NO.1問題集 問68～問101	問題集より解答する時間を設け、個々で回答できない問題については解説をして解き方を理解する。
6		
7	NO.1問題集 問102～問134	問題集より解答する時間を設け、個々で回答できない問題については解説をして解き方を理解する。
8		
9	NO.2問題集 Vol. 1	問題集より解答する時間を設け、個々で回答できない問題については解説をして解き方を理解する。
10		
11	NO.2問題集 Vol. 2	問題集より解答する時間を設け、個々で回答できない問題については解説をして解き方を理解する。
12		
13	NO.3問題集 問1～問34	問題集より解答する時間を設け、個々で回答できない問題については解説をして解き方を理解する。
14		
15	NO.3問題集 問35～問69	問題集より解答する時間を設け、個々で回答できない問題については解説をして解き方を理解する。
16		
17	N.3問題集 問70～問104	問題集より解答する時間を設け、個々で回答できない問題については解説をして解き方を理解する。
18		
19	NO.3問題集 問105～問137	問題集より解答する時間を設け、個々で回答できない問題については解説をして解き方を理解する。
20		
21	超音波探傷試験 規格の解説	問題集より解答する時間を設け、個々で回答できない問題については解説をして解き方を理解する。
22		
23	超音波探傷試験 規格の解説	問題集より解答する時間を設け、個々で回答できない問題については解説をして解き方を理解する。
24		
25	前期試験対策	前期試験範囲の説明と質疑応答
26		
27	資格試験対策	授業内で行った問題集及び教科書の問題集など解き方が不明な問題を個別で対応。
28		
29	斜角探傷2点調整の練習	斜角探傷試験による音速、測定範囲、ゲート、校正値の設定による二点調整及び入射点の読み取り、屈折角の測定を実施。
30		

回=90分	項目	内容
31	RB-41によるDAC線図の作成方法の解説	斜角探傷にてRB-41の標準横穴を探傷して6カ所を探傷してDAC線図を作成する。
32		
33	RB-41によるDAC線図作成の練習	斜角探傷にてRB-41の標準横穴を探傷して6カ所を探傷してDAC線図を作成する。
34		
35	RB-41によるDAC線図の作成方法の解説	斜角探傷にてRB-41の標準横穴を探傷して6カ所を探傷して10分以内でDAC線図を作成する。
36		
37	RB-41によるDAC線図作成の練習	斜角探傷にてRB-41の標準横穴を探傷して6カ所を探傷して6分以内でDAC線図を作成する。
38		
39	RB-41によるDAC線図の作成方法の解説	斜角探傷にて二点調整及び入射点及び屈折角の読み取り、RB-41の標準横穴を探傷して6カ所を探傷して10分以内でDAC線図を作成する。
40		
41	RB-41によるDAC線図作成の練習	斜角探傷にて二点調整及び入射点及び屈折角の読み取り、RB-41の標準横穴を探傷して6カ所を探傷して8分以内でDAC線図を作成する。
42		
43	RB-41によるDAC線図作成の練習(実技試験)	斜角探傷にて二点調整及び入射点及び屈折角の読み取り、RB-41の標準横穴を探傷して6カ所を探傷してDAC線図を作成。評価内容は入射点、屈折角、探傷感度、DAC線作成までの時間。
44		
45	後期試験対策	後期試験範囲の説明と質疑応答。